

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 3 月 18日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103482
法人名	医療法人 友志会
事業所名	グループホーム玉里
所在地	鹿児島県鹿児島市玉里団地2丁目5番1号 電話番号099-220-3115
自己評価作成日	令和 4年 2 月 17 日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和 4年 3 月 12 日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営母体の内科・循環器内科のクリニックが同一敷地内にあり、在宅療養支援診療所の届出をしており、月2回の訪問診療を実施している。そのため、病気を持っておられる利用者様も安心して過ごして頂けます。また、看取りにも対応しており、刻み食やミキサー食を作るなどして、最後まで経口摂取して頂けるよう工夫しています。食事は色とりどりの食材を使用し、美味しく、高齢者好みの料理を作り、利用者様方に喜んで頂いています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市役所から車で10分程の玉里団地の中心部に法人母体の協力医療機関に隣接したビルの2・3階に平成18年に開設されている。階下にはデイサービス事業所が、また、同一敷地に「グループホーム良友」も併設されており、これらの事業所は法人本部を中心に情報の共有や災害時の協力体制を構築している。周辺には、郵便局や薬局、金融機関、コンビニ、スーパーマーケット、個人商店等が立ち並んでいて利便性も良い。

管理者及び職員は、コロナ禍により地域との交流が難しい状況が続いている現状を考慮して運営理念の見直しを行い、本年2月より変更している。新しい理念に「心の琴線に触れるよう あなたと会話します」「本気のケアを贈ります」「快適な環境の中であなたと共に暮らし、笑顔あふれるホームにします」の3項目を掲げ、廊下や事務室等に掲示し、朝の申し送りの前後に唱和も行って周知を図っている。利用者の尊厳や人格、想いを大切にしながら、運営理念を常に意識して、利用者に寄り添い、本気のケアに努めており、管理者は毎朝、申し送り後のミーティング(10分程度)で、理念の意義や本気のケアについての講話も行って理念の共有を図っている。コロナ禍により家族との交流を図る行事も中止になり意見交換の機会が少ないことを憂慮して、管理者は家族との電話による情報交換に努め、家族からの相談や要望等を昼夜の別なく受けており、家族との信頼関係を築いている。

管理者及び職員は、日頃からコミュニケーションに努め信頼と協力体制を築いており、意見や要望を把握し、健康や個人的事情等にも配慮して、サービスの向上や働きやすい職場環境の整備を法人代表とも協議しながら取り組んでいる。ケアに対する助言・指導やスキルアップを図る研修を日常的に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念を職員室の壁に貼ってあるので、職員は常に理念に触れることができる。平行し理念を廊下に貼り訪問客や入居者も見られるようにしてある。</p>	<p>コロナ禍で地域交流が難しい現状を考慮し、長年掲げてきた理念の見直しを行い、ケアの目標に着目した運営理念に本年2月から変更している。理念は職員や利用者、家族、来訪者にも周知を図るため、職員室や事務室、廊下に掲示し、朝の申し送りの前後に唱和も行っている。毎月の職員会議や日々の申し送り時にケアの振り返りや意見交換、意義の確認等を行って、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>日常的に心掛けているが、コロナ禍で実施困難。</p>	<p>町内会に加入し、地域のイベントや清掃活動への参加、買い物、ボランティアの受け入れ、散歩時の挨拶等の交流を行ってきたが、コロナ禍が著しくなって以来、外出、外食、ボランティアの受け入れ、ホームの行事への住民の参加等の交流は控えている。通院や訪問美容の実施は継続している。</p>	
3		<p>○事業所の力を生かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている</p>	<p>介護相談は、近隣の方々だけでなく、地域の方々の力になれるよう尽力しているが、コロナ禍以降は遠慮させて頂いている。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議もコロナ禍で回数を減らさざるを得ない。その中でも皆様に協力しても貰い、なんとか年に数回は行えている。</p>	<p>会議は、民生委員、長寿安心センター伊敷台所長等が出席して隔月毎に開催し、利用者の状況やホームの運営、行事、感染症予防、ヒヤリハット等を議題に協議して、サービスの改善に取り組んできているが、コロナ禍に配慮して、現在は開催の延期や書面会議に変更している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿安心センター、特に圏域に当たる伊敷台の職員の方々や生活保護課を核に長寿安心課等の方々等、市の職員の方には気軽に相談できる関係を構築出来ています。	介護保険の更新や各種制度の申請、報告、運営やケアに係る相談、感染症予防に関連する協議、生活保護受給中の利用者（5人）の処遇に関する事等を、窓口や電話で行い、指導や助言、提案をもらうなど、市担当者とは日頃から協力関係を築いており、運営やサービスの向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に4回の身体拘束禁止の内部研修で身体拘束は絶対に行わないことを職員は充分理解している。傍ら身体拘束廃止委員会を開催しているが、コロナ禍で困難な状況にある。	身体拘束や高齢者虐待については施設内研修を計画的（年4回）に実施して周知を図り、日々の申し送りや職員会議時に振り返りや意見交換を行って拘束や虐待の無いケアに取り組んでいる。身体拘束適正化のための指針も整備しているが、委員会の開催は、コロナ禍に配慮して中止している。日頃の関りの中で利用者の思いの汲み取りに努め、尊厳や個性を大切に、理念に掲げた「本気のケア」に努めており、不適切な言葉等には、その都度、管理者が助言、指導を行って改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に組んである内部研修は勿論、日常生活でも度々、虐待に類した行為は管理者が中心となり話し合い、質疑応答等を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利や成年後見制度について勉強会は行っているが、介護という職種には密接な課題とは言い難く、他の分野の内部研修と比すと認知度、理解力は薄いと思われる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、重要事項など契約に当たっての説明を充分に行っている。最近の傾向として入所時はほぼ入居者様と家族のみが来られ、荷物持ち込みや書類作成は入居前に終わらせる風潮がある。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍前は重要なスタンスにあった家族会や敬老会を開催することができていないのが実情。家族の方々とは管理者が電話し、意見を引き出そうと試みているが、具体的な要望、指摘は頂けていない。	利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で汲み取り、家族からの意見や要望は、面会時や電話、手紙で利用者の状況を伝えながら聞き取るように努めている。家族との交流を図る行事の殆どが中止され面談の機会が少ないことから、管理者は電話による家族からの相談等を昼夜を問わず受ける体制で改善を図っている。出された意見要望等は職員会議等で共有し、全員で協議して改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者がほとんど担っているのが実情である。管理者は経営会議、管理者会議であったことを支障のない範囲で職員に知らしめ、運営に関しても職員から意見を窺うもほぼ意見無が実情。	管理者は職員とのコミュニケーションにより協力及び信頼関係の構築に努め、朝夕の申し送りや、毎朝の10分間ほどのミーティング、業務中、個人面談等で要望や意見を把握して改善に努めている。また、ケアへの助言やスキルアップを図る研修の実施、勤務シフトには休暇の取得や健康状態、個人的事情にも配慮する等、働きやすい職場づくりに取り組んでおり、職員の定着率は高い。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算を含め用件を満たす他の加算に該当しないかどうかには留意している。残業時間ほぼ皆無。有給休暇も充分取得出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ禍で法人外の研修参加はほぼ無理。一人一人の力量はほぼ把握できている。また、内部研修は管理者主催で年に数回以上実施されている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との関りは管理者依存が強いが、コロナ禍でなかなか実践できていない。勉強会は内部研修を兼ね時々開催している。サービスの向上の質もコロナ禍で上手く行き難い。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居後はある程度距離感を保ちながら本人様と関わるが、コミュニケーション摂取に時間をかけ、何でも話せるような間柄になれるよう努めている。次第に安心感を抱いて下さる。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族とは十分に話をし、理解し、入居した後、家族との調整を行いながら、本人や家族が納得、満足できるような支援に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族が何を一番求めているかは常に意識している。ニーズも理解しながら支援を試みている。グループホームは基本、他のサービス利用はできないので、そのぶん配慮している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>介護者、要介護者という枠にとらわれずも、利用者方は人生の先輩であり、今の日本を作ってくれた方達。そのことは常に念頭に置きながらも、疑似家族の如くである。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>意思を確認し、本人の希望があれば、気楽に家族と電話で話せるよう心掛けている。絆は常に最優先される。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの方達との親交、親睦は大事にしてきたが、新型コロナ禍以降は、大きく様変わりしてしまった。現実ほぼ皆無。</p>	<p>利用者毎の馴染みの情報を把握し、通常は近辺の散歩や買い物、一時帰宅、外食等を家族の協力も得ながら支援しているが、現在はコロナ禍に配慮して外出や外食、外泊、会食等は控えている。訪問美容は実施し家族との面会、電話や手紙の取り次ぎ等に取り組んで、関係の継続に努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者間で人間関係は歴然と存在する。その点を考慮し、座席の位置を変えることが屡ある。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>殆どの方が看取りを希望されているため、途中でサービス利用が終了することは稀有。死亡退去及び転院後も御家族の相談には積極的に支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	特にケアプラン改定時本人と話をし、ニーズや希望を聞き取り可能な限りケアプランに反映させている。自己訴えが困難な方は表情や仕草で理解できるように努めている。	高齢・重度化によりコミュニケーションが難しい利用者もいるが、日頃の会話や仕草、サイン等から意向の汲み取りに努め、家族の意向も確認しながら、その人らしい安全で笑顔のある暮らしになるように、理念に掲げた「本気のケア」に取り組んでいる。利用者の意向に沿って懐かしい音楽やテレビの視聴、ぬり絵等の取り組みを体調や残存能力に配慮しながら個別に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との聞き取りや、情報提供書等で本人の人生の轍を理解、尊重し、入居してから安心して生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	其々の一日の過ごし方には差異があつて当たり前。その全てを受け止め、理解し有する能力を引き出すことに重きを置いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は、本人の意向に耳を傾けながらも家族と話す機会を設けている。更に職員間で話し合い、担当者はケアプランに繁栄させ、完成事前に本人家族に説明している。	利用者や家族の意向を日頃の関わりの中で把握し、主治医の指示やモニタリング時の職員の意見等を基に残存機能や習慣、楽しみ事にも配慮した介護計画を作成している。利用者の心身の変化に対しては計画を実態に沿って変更し、家族の理解も得て改善に努めており、実施状況はバイタルチェック表や介護記録等で共有している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を参考に、職員全員が情報を共有し、理解し話し合う機会を設け、介護計画に活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望が叶うよう職員全員で手を差し伸べてきた。個人的な要求は家族の力を借りながらも。だが、コロナ禍以降は思うようにいっていない。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源の活用が利用できない現状。買い物を好む利用者様は多い。しかしできない。最近ではドライブ以外日常的に実施していた散歩も周りの目を意識せざるを得ない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当グループホームの運営母体は内科のクリニックであり、在宅療養支援診療所を届出しており、訪問診療を行っているので、受診や往診など必要な医療が適切に受けられる。	本人・家族が希望する医療機関での受診を支援しており、殆んどの利用者が法人母体でもある隣接の協力医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療や通院が実施され、日常的に連携が図られて適切な医療が受けられている。必要に応じて歯科も訪問診療で対応し、他科受診（眼科等）は家族が主体となって同行している。利用者の健康状態は家族にも密に連絡して、利用者や家族の安心や信頼につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>今現在看護師は不在。緊急時、それに準じる状態に利用者様が いる場合、日中夜中を問わず、 管理者経由で主治医に連絡して いる。往診時は予め管理者が作 成する提出する上申書を基に、 医師が適正に対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>主治医が紹介状を書くなどして いる。また、新型コロナ禍以前 は管理者が時折病院に赴き、看 護師等とコミュニケーション撰 取を図り、帰園した以興安心して 生活できるようにしていた。 情報不足の渦中でも看護師等と の連携に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居する際、重度化対応に関し説明し、当ホームでの看取りも可能であることを説明し、要望があれば終末期に向けた方針を話し合い、できるだけサポートを職員一丸となって取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合の対応指針を整備しており、重度化した時点で終末期の対応についても説明し意向の確認と同意を得ている。可能な限り家族の想いに沿ったケアをチーム体制で取り組んでおり、一昨年は2人の看取りを実施している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応は経験豊富な管理者兼ケアマネージャーが職員に知識を与えている。傍ら、緊急時に該当する場合、医師との連携を巧妙にし、応急手当、初期対応に万全を期している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>主に火災を想定した避難訓練を消防署立ち合いのもと、職員参加の形式にて年2回実施している。運営規程にも火災・地震・台風時の対応を明記。近隣の住民の方にも協力を要請し、快諾を得ている。</p>	<p>夜間発生も想定した火災中心の災害訓練を年2回実施している。日常的に避難経路や消火器の設置場所等の確認を行い、災害の報道も話題にして防災への認識を共有している。近隣の住民や道路向かいのコンビニとは災害時の避難対応の協力を要請して了解を得ている。1週間程度の食料や飲料水を備蓄し、ラジオ、懐中電灯等も備えている。なお、コロナ禍により消防署は訓練時の立ち合いは実施していない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語対応の言葉掛は管理者が事細かく指導している。プライバシー確保のため、入室の際はノックし、利用者様の意思を尊重している。	人格や誇りを損ねる事の無いように、施設内研修の実施やケアの振り返り等で認識を共有している。利用者の生活歴や習慣等に配慮しながら、その人らしさを大切に自己決定を尊重した支援に努めている。入室時は声掛けやノックを励行し、申し送りは第三者に聞かれることが無いように事務室で行い、排泄や入浴時のケアは羞恥心にも配慮して、適切な言葉遣いを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日課である飲食摂取時間はできるだけ本人の意思に任せていると同時に体調に合わせるよう努めている。入浴も無理強いすることは控え、本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大前提は利用者様の権利と僅かながらの義務。危険性を孕まなければ利用者様の権利を重んじ、希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	御自身で服を選べる方は意に任せている。お洒落を楽しみ身だしなみを整えられるよう支援している。主役は利用者様本人。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は食べ易く其々に適した大きさに切ったり、目でも楽しめるよう彩りや盛り付けに工夫を凝らしている。食後の後片付け等にも気軽に参加できるようにしている。	利用者の好みや形態、栄養バランス、季節感、盛り付け等に配慮しながら、食事づくりに取り組んでいる。おせちや節句、誕生会等の行事食や弁当のテイクアウトも実施するなど、食事が楽しみなものとなるように工夫しているが、コロナ禍に配慮して、現在、外食や家族との会食等は自粛している。利用者も準備や片付け等を楽しみながら一緒に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を吟味し、バランスの良い高齢者向けの食事を提供している。重要な事項である水分摂取は個人個人の必要性、許容量に合わせ、こまめに摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは必須である。利用者様の能力に合わせ、出来ない方は適切に手を差し伸べている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	居室にポータブルトイレを備えたり、適時トイレ誘導を行っている。失敗しないよう充分配慮している。また、安易にオムツ使用に至らないよう支援している。	各利用者の排泄パターンを把握し、身体の状態や習慣に配慮した声掛け等で、可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者の状態に応じてポータブルトイレの活用や介護用品、ケアの方法を介護計画に反映させて改善に努め、なるべくオムツに頼らないケアに取り組んでいる。便秘の予防に食事には野菜や果物を多く取り入れ、水分の摂取量や運動にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や果物を多く摂り入れてはいるが、体質的なこともあり、便秘傾向にある方もおられるが現在特に問題となる利用者はおられない。元来便秘傾向のある方は緩下剤にて調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>入浴の嗜好は人其々。そこにバイタルサインも関与する。特に高血圧時や発熱時や発熱後は入浴は遠慮して貰っている。あくまでも一人一人の体調や意思を尊重している。</p>	<p>週2回の入浴を基本としているが、必要時には、その都度、温タオルやシャワー浴で清潔を保っている。温度や時間等は意向に沿って柔軟に対応し、重度の利用者には管理者も介助し、2人介助も取り入れながら、個浴で楽しんでもらっており、入浴後は水分補給や軟膏塗布等を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いしないで、時間の変更や声かけ等の工夫で、利用者自身の気持ちを汲み取りながら支援している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>殆どの利用者様の睡眠パターンは決まっています。それから顕著に逸脱することは稀有。比較的全員睡眠は安定している。日中は居室で休息をとる方もいる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者様其々持っている病は異なる。グループホームという性質上、薬に関する説明しても理解できない方が過半数を占めるが、服薬支援と症状確認には神経を尖らせている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>洗濯物を畳んだり、テーブル拭き等の軽作業をして貰っている。コロナ禍で楽しみごとはかなり制限しているが、その中でレクリエーション等で気分転換が図れるよう工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援はコロナ禍で全て中止している。本意ではないが仕方ない。	利用者の高齢化や重度化により、外出困難な利用者も数人いるため全員での外出は困難な状況となっている。現在はコロナ禍に配慮して日頃の外出は控えているが、天候や健康状態、感染予防に配慮しながらドライブにより、桜の花や馴染みの街並み、季節の風景等を車窓から楽しんでいる。ホーム内でのゲームやぬり絵、トランプ、昔の歌謡曲やテレビ視聴、職員によるフラダンス等、工夫してリフレッシュを図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの預り金は管理者が責任を持って保管している。自己申告でも事業所判断でも購入が必要な場合適時購入している。紛失が容易に考えられるので本人訴え以外は金銭保持は無し。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話で家族との話は支援している。手紙のやりとりにしても同様である。だが、現実問題としては電話は聴覚の問題、手紙は筆跡不可の方が少なくはない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはテーブルの他複数のソファを配置してあるので気ままで自由な世界観が楽しめるようにしてある。建物構造上光はふんだんに入るので、彩光面に配慮し、眩し過ぎないよう気を遣っている。通年、利用者様方が快適に過ごせるよう配慮している。	ホールは、明るく余裕あるスペースで円形テーブルやソファ、テレビ等が利便性を考慮して設置され、利用者の作品や行事の写真、季節感のある活花等が随所に飾られている。また、対面キッチンからは調理の音や臭いが伝わり和やかな雰囲気になっている。清掃や空調、整理整頓等を徹底し手指消毒剤も設置されて、利用者は四季を感じながら快適に過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者様方にも人間関係は存在する。故に仲の良い者同士同じテーブルで楽しく過ごせるよう配慮している。日課以外特に制限することはない。結果、独りで過ごせる時間は充分ある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時持ち込んだ家具や調度品、小物など好みものを居室に置き、配意替えは自由。利用者様が心地よく過ごせるよう配慮している。</p>	<p>洋間の居室にはベッド、エアコン、タンス、洗面台が備えられ、腰高窓の構造で明るく余裕ある広さが確保されている。利用者は自宅で愛用していたテレビや家族写真、寝具、小物等を持ち込み、自身の作品や頂いた誕生プレゼントも飾って、その人らしく落ち着いて過ごせる居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フロア内は自由に闊歩できるようバリアフリーにしてある。安全且つ自立した生活は営まれる。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない